

# News Letter vol.48 2012.9.7

## カナダ UBC 森林学部を訪問して

2012年5月14日に日本を旅立ち、カナダのバンクーバーにあるブリティッシュコロンビア大学(UBC)の森林学部にて約3ヶ月間訪問させて頂き、研究のみならず多くの事を学ぶ事ができました。わずかですが、私が経験したことをご紹介します。

\*\*\*\*\*

—どんなところ？

まず始めにUBCのあるバンクーバーについてご紹介させて頂きます。長期滞在で最も重要なのはその土地に慣れること。どんなに素晴らしい研究環境でも日々の暮らしが苦痛なら長続きしません。私が滞在したバンクーバーは成田空港から飛行機に乗って約10時間移動した場所にあり、カナダの西海岸、アメリカのシアトルから車で約4時間程度北上した場所にあります。私が訪問した際はサマータイムで時差は16時間あり、UBCで仕事を終え、帰ろうと思った頃、朝を迎えた日本からメールがドドッと送られてきてもう一仕事なんてこともよくありました。バンクーバーは北海道以北サハリンと同緯度の北緯49度に位置しますが、西岸海洋性気候のため夏は涼しく(20℃前後)、冬は暖かく(0℃前後)

暮らし易いと言われて  
います。ただ、雨が多いことでも知られ、晴れの日が続く7月から9月になるとビーチは夏を待ちわびた多くの人達で賑わっています。



イングリッシュベイの流木ベンチでくつろぐ人達

—どんな大学？

数多くの学部がありますが、特筆すべきはやはり日本では珍しい森林学部があるということです。詳しくは派遣者ブログ(<http://kuoverseas.exblog.jp/>)に紹介しておりますが、森林に関わる全ての研究がこの森林学部で行われており、学部教育では森林に関わる幅広い知識を習得し、大学院で専門の研究を行っています。森林の勉強がしたいなら間違いなくUBCはお勧めです。海外からの留学生も多く、私が滞在した研究室では半数以上を留学生が占めており、他の研究室には学部生・大学院生問わず、日本からの留学生在籍していました。

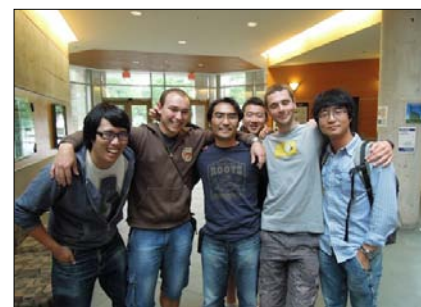
UBCと姉妹校提携している日本の大学からも多くの交換留学生が訪問しており、日本語が聞こえてくることも珍しくありません。



Malcolm Knapp 演習林にて

—どんな研究活動をしてきたの？

私がUBCで行った研究は、北米で有用樹種であるダグラスファーの水分通導の機能を持った仮道管内部に存在するらせん肥厚の形態を調べることでした。年間を通じて降雨量の少ない乾燥地域に生育するものと沿岸部の雨の多い地域に生育するものではその気候に適応できるような細胞の特徴を有することが考えられ、最新の分析装置を使ってらせん肥厚の3D分析を行いました。今回は訪問研究員の身分で滞りましたが、博士課程の学生と同世代ということもあり、学生と同じように週に1度開かれる研究室のゼミに参加し、他の学生が行っている実験や私の実験についてディスカッションを行うことができ、大変有意義な研究生生活を行う事ができました。また、比較的少人数の研究室だったこともあり、毎日同じ部屋で実験をしていると学生みんなと仲良くなり、週末には研究室のメンバーで町のレストランに食事へ出かけたり、バーベキューをしたりとプライベートでも楽しく生活することが出来ました。



日・中・仏・加・交流？！

\*\*\*\*\*

今回私の滞在は3ヶ月でしたが、バンクーバーの一年の内でも最も良い時期に訪問する事ができ、研究のみならずプライベートでもカナダの生活を満喫することが出来ました。カナダの建国記念日である7月1日のカナダデーにはロッキーマウンテンの麓町バンフで花火を見ることもでき、大変印象深いカナダ生活を送ることが出来ました。最後になりましたが、この様な機会を与えて頂いた本プログラムの関係者各位およびサポートして頂いた多くの方々には大変感謝しております。多くの九大生がUBCで学ぶ日が来ることを期待しております。